

日本 鑄造

川崎でIoT化推進

センサーで 動線分析 作業効率化目指す

大手鑄造メーカー、日本鑄造は主力の川崎工場（川崎区白石）にIoT技術を1月に導入し、設備のIoT（モノのインターネット）化を推進する。工場の管理者や作業員にセンサーを取り付けて動線分析を行うもので、作業の効率化を目指す。

化を進めており、至近2年間で機械加工設備を3台導入した。この設備は稼働率計を追加設置することで、加工

率を高める。将来的には溶解炉にも取り付ける考え。

1月に川崎工場内でWi-Fi（ワイファイ）

将来的にロボ導入検討



鷲尾社長

なども手掛けているなど、造型工程全体で最適体制の構築に取り組んできた。

さらなる作業効率の向上を目的に動線分析を実施して工程内レイアウトの見直し、最適な人員配置などを検討する。1月から試験運用を始めており、効果を確認した上で、本格導入を検討する。

センサーを導入したのは、溶鋼を鑄込む鑄型を製作する造型工程。建設機械向けを主体とする大型の鑄型を製作していたが、生産効率化を図るため、近

く、アイドリングタイムなど稼働状況をリアルタイムに把握し、最適な操業形態へと改善する。川崎工場はこれまで協力業者に委託していた機械加工の内製

金属分析器

三洋貿易株式会社
TEL:03-3518-1196

環境を構築し、社内ネットワークを有線から無線化にシフト。新型コロナウイルス禍で密を避けながら、会議に参加できる体制を整備した。昨年末には既存の社内システムを改良することで、社内決裁などでの押印を省略する電子署名を始めた。今後もIoT技術を積極的に活用し、各工場でのIoT化を推進する。将来的にはロボット導入も検討していきたい（鷲尾勝社長）。